

会議名称	令和5年度第2回平塚市スポーツ推進審議会及びワーキンググループ
日時	令和5年（2023年）10月3日（火） 10時から11時40分まで
会場	平塚市教育会館 中会議室
委員数	15名
出席者 委員	13名 陶山正明、吉原さちえ、粟生光一、高橋佳久、傳田實、鈴木登喜雄、松本靖史、平出善男、畔柳豪、井上純一、小林みゆき、岩井美由紀（ワーキンググループ）相原貞雄
出席者 事務局	5名 平井社会教育部長、佐野スポーツ課長、山田課長代理、天瀬担当長、深田主管

## 1 あいさつ

（平井社会教育部長）

事務局より、委員の定数15名に対し、本日の出席者は13名であり、委員の出席が過半数を超えており、平塚市スポーツ推進審議会規則第4条の規定に基づき、本会議が成立している報告がされた。

事務局より、傍聴人はいない旨報告がされた。

## 2 協議事項

### (1) 平塚市スポーツ推進計画について

（事務局）

- 概要版に基づき説明する。
- 今回策定する計画は、国の第3期スポーツ基本計画で今後5年間に取り組む施策となっている「スポーツを通じた共生社会の実現」となっていることから計画の副標題を「誰もがいつまでも健康でスポーツに親しめる ひらつか」としたいと考えている。
- 今回策定する計画（以下、「本計画」）は、平塚市の目指す姿は「誰もがいつまでも健康でスポーツに親しめる ひらつか」とした。
- 国の第3期スポーツ基本計画が策定され、新たな3つの視点（スポーツを「つくるはぐくむ」、「あつまり」、「スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる、スポーツに「誰もがアクセス」できる）が加わったことから、本計画においても取り入れ、地域の特性や

現場のニーズに応じたスポーツの施策とする。

- 国の第3期スポーツ基本計画で新たに加えられた3つの新たな視点を踏まえ、次の4点を今回の計画に施策を盛り込んだ。
  - (1)「基本的施策」の「障がい者のスポーツへの参加促進」に新たに「具体的施策」として、「スポーツを通じた共生社会の実現」を加える。
  - (2)「基本的施策」に「新たなスポーツ実施機会の創出」を加え、「具体的施策」として、「デジタルを活用したスポーツの推進」及び「多様な主体が参加できるスポーツの機会創出」を加える。
  - (3)「基本的施策」の「スポーツ施設等の充実」に「スポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供」を加える。
  - (4)「基本的施策」の「スポーツ情報の提供の充実」に「継続的なアクセスの確保」を加える。
- 基本目標は、スポーツ推進計画【中間見直し版】を踏襲し同じく4つの基本目標とした。
- 基本的施策は4つの基本目標それぞれに記載した。
- 計画期間は令和6年度から10年間とし、中間年度である令和10年度に中間見直しを行う。
- 施策の体系は、左側から順に基本目標、基本的施策、現計画に記載している取組視点、続いて、新たに国の計画に加わった3つの新たな視点、一番右側には具体的施策を記載している。
- 今回新たに加えた基本的施策は「新たなスポーツ実施機会の創出」であり、具体的施策については、「デジタルを活用したスポーツ機会の創出」である。
- 基本的施策「障がい者のスポーツへの参加促進」の中、具体的施策に記載のある「スポーツを通じた共生社会の実現」を進めていく。
- 基本的施策「スポーツ施設等の充実」の中に、具体的施策に新たに「スポーツに親しめる場づくりの提供」を加える。
- 基本的施策「スポーツ情報の提供の充実」の中に、具体的施策に新たに「継続的なアクセスの確保」を加える。
- その他の施策は現計画を踏襲する。
- 平塚市スポーツ推進計画の素案について説明する。
- 2ページの計画改定の趣旨ですが、現時点での人口に関する分析、国の計画に新しく3つの視点が加わったところについて、記載している。
- 4ページの国等の動向について、国と県の計画改定について、記載した。
- 8ページの本市を取り巻く状況について、人口動態からどういう傾向がありスポーツをすすめていくのか指標が必要なため人口推移を記載している。
- 9ページの生活習慣病患者の割合について、現時点の最新のデータに反映した。
- 11ページの市内のスポーツ団体について記載している。

- 13 ページの大学の存在ですが、記載のとおり神奈川大学は横浜へ移転しましたが、一部記載している。
- 14 ページ、本市のスポーツの現状と課題ですが、国の第3期スポーツ基本計画に新たに3つの視点が加わったことから、「つくる／はぐくむ」、「あつまり、ともに、つながる」、「誰もがアクセスできる」の3つの視点を加えた。また、各データは最新のデータに反映した。  
 コロナウイルス感染症の影響やラグビーワールドカップ、2020 オリンピック・パラリンピック大会開催など社会情勢の変化があったことから、本市のスポーツの現状と課題について「スポーツに関する情報の現状と課題」から「スポーツに関する情勢の現状と課題」として整理し修正をした。
- 18 ページ、成人のスポーツについて、最新のデータに基づき記載した。
- 25 ページ、高齢者のスポーツについて、最新のデータに基づき記載した。
- 26 ページ、障がい者のスポーツについて、最新のデータに基づき記載した。
- 29 ページ、「みる」スポーツの現状と課題について、一部データが揃っていないが、最新のデータに基づき記載した。未記載の部分はデータが揃い次第記載する。
- 32 ページ、「ささえる」スポーツの現状と課題について、コロナウイルス感染症の影響により、参加者数が令和2年度、令和3年度に減っている。また、一部データが揃っていないが、最新のデータに基づき記載した。未記載の部分はデータが揃い次第記載する。
- 42 ページ、スポーツに関する情勢の現状と課題について、コロナウイルス感染症及びSDGsの取り組みについて記載している。
- 43 ページ、スポーツの価値の再確認について、コロナウイルス感染症の影響及び東京2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーについて記載している。
- 46 ページ、平塚市の目指す姿は、「誰もが いつまでも健康で スポーツに親しめる ひらつか」としたい。
- 48 ページは、具体的施策等を記載した政策の一覧表を掲載している。
- 49 ページについて、見直し後の施策の展開について、計画策定から約10年経過し、事業の廃止、統合等が行われているため、見直しをする。
- 50 ページ以降について、基本目標等について記載した。現時点での各担当課の施策について記載している。
- 81 ページには、スポーツ関係団体について記載している。
- 82 ページには、庁内連携の推進についてです。東京2020 オリンピック・パラリンピック大会が終了し、担当課が無くなったことから整理をしている。
- 85 ページには、現状値はアンケート結果等に基づいた令和4年度の数値を記載している。最終年は令和15年度としている。目標値の考え方について、国が調査した前回の調査（平成29年度）と直近の数値結果の差を基準に令和15年度までの年数を勘案し目標を設定した。

- 目標数値について、現計画では具体的な数値を掲載ができなかったものは、計画の進捗を管理することが困難なことから今回の計画では掲載しない。
- 目標数値の考え方について、市民の週1回以上のスポーツ実施率は、国の全体実施率が令和4年度は52.4%、平成29年度は51.5%であり、その差が0.9ポイントであること、つまり5年で0.9ポイント上昇している。このことから、市の目標については、令和4年度の実績値69.5%をベースに、国の全体実施率であるに5年で0.9ポイント上昇分、すなわち10年で1.8ポイント上昇した71.3%を令和15年度の目標とする。
- その他の指標については、コロナウイルス感染症の影響により令和元年度、2年度が大きな落ち込みがありました。影響前の平成30年度の実績に戻るとは時間を要すると考えられることから、令和15年度の目標を平成30年度水準の実績を目標としたい。この目標から令和10年度は概ね中間値の数値とする。
- 各図表について、最新のデータに修正できるものはするとともに、調査がされていない等最新のデータが得られないものについては、基本的に掲載しない。
- 計画指標について、基本目標毎に掲載していましたが、計画全体の指標が一目でわかるように一覧表とした。
- 共生社会の実現のため「障がい者スポーツ」については、「県障がい者スポーツ大会の参加者数」から「市の障がい者スポーツ大会や普及啓発事業への参加率」に指標を変更する。

(質疑応答・意見交換)

会長：平塚市スポーツ推進計画中間見直し(令和4年度まで)の資料とある意味対比的に事務局から今回の素案を示されたということでしょうか。

→事務局：そのとおり。

会長：平塚市スポーツ推進計画(素案)に対して今度ワーキングを含め時代に合わせた見直しをすることで、事務局はこれからどのように進めるのか。

→事務局：この場で御意見をもらうのはなかなか難しいと思うが、御意見をいただく期限を設けたい。今後パブリックコメントを実施し、年度末には完成させたい。

会長：現計画の中間見直し版の「スポーツを楽しみ、健康で長寿のまち ひらつか」を「誰もがいつまでも健康でスポーツに親しめる ひらつか」という新しい言葉に変えるということがある。また、今後ワーキングで議論があると思うが課題や分析をした5年間の評価表があり、庁内の評価を含めてあったと思うが今後ワーキングの中で出てくるのか。

→事務局：そのとおり。

会長：S I Nの意味は、何か。

→事務局：S I Nとはスポーツ(Sports)でインクルーシブ(Inclusive)な社会を目指して誰もがつながろう(Networking)の各頭文字をとっています。共生社会の実現を含

めて誰もが集まろうという意味が込められている。

会長：今日は事務局から素案の概要説明があり、今後進めるにあたり委員の皆様を示した。

具体的な動きについては、タイトなスケジュールだが、パブリックコメントを実施する。

会長：各委員から事務局から説明があったことに関して何かご意見はあるか。伺いたい。

委員：確認がある。A 3用紙中の施策の体系で、素案にもあるが、生涯スポーツの推進のところで、基本的施策（5）新たなスポーツ実施機会の創出①デジタルを活用したスポーツの推進について、様々な調査が行われたと思うが、どの点を踏まえて加えたのか。

→事務局：素案60ページの①デジタルを活用したスポーツの推進部分には、具体的記載がないが、総合計画中では、eスポーツの研究実践というものがある。いわゆる対戦ゲームのようなもの、広義では、世界大会の対戦ゲームだけではなく、例えば、地域の史跡を歩いて周るなど、スポーツを入れながらITを用いたものができれば実践につながる。また、普段外に出られない方に何か提供できないかと考える。

委員：eスポーツは、ゲームを想像しやすいが、調べたりしながら平塚市を知ってもらうことが入ると、みんな有効した形でスポーツが取り入れていけると考える。素案80ページ、スポーツ関係団体などの主な役割で、障がい者スポーツのことが取り上げながら、ここに名前が入っていないことが気になっている。いろいろな団体が入ればより充実したものになる。

→事務局：具体的に接している障がい者スポーツ団体はないが、今回障がい者団体の代表として来ていただいている。

委員：障がい者団体は団体としてはあるが、スポーツ関係となると、団体の中に有志的な方が集まってボッチャとかフライングディスクのスポーツをやっている。しかし、団体という少し違うかと思う。

会長：スポーツ関係団体に記載している同じような団体組織ができていないということか。

委員：51ページ、成人のスポーツ機会の充実に平塚市健康推進員連絡協議会という言葉があるが、これはスポーツ関係団体に入らないのか。健康ということで入っていないと考える。

→事務局：現計画から踏襲したものだが、健康スポーツということで、平塚市健康推進員連絡協議会は掲載したいと考えている。また、障がい者スポーツ団体は調整の上、掲載するのか考える。

会長：81ページ記載の団体は、いわゆるスポーツ5団体以外はそういう関係ではないかということだと思うが、スポーツ5団体の意見を伺う。

委員：地域には障がいの方、高齢者、子ども、あらゆる方がいて地域を構成している。地域の人達にスポーツ推進計画に沿ってあらゆる機会を通じてスポーツを楽しんでもらうことが体育振興会の務めと考える。施策の体系だが、具体的には体育振興会が障がい者スポーツの推進、地域、トップアスリートあらゆるところに関わりがある。体系を平面的に横軸縦軸の交差するところこれを推進委員、レクリエーション連盟であるとかに

しないと、漏れがでてくる。

→事務局：どうしてもある施策について限定的になる。例えば、60ページの具体的施策の多様な主体が参加できるスポーツの機会創出で、もしかすると地域の団体が関われば可能性がある。可能性のある団体については、記載していく。また、会長から話があった評価に関わってくる場所は、メインのところの評価をすることであれば問題ないと考える。考えられる範囲で入れたい。

会長：スポーツ5団体が縦軸横軸ではないが、いろんな形で障がい者を含め関わってくる。まちづくり財団も全体が関わってくる。合同で考え方も含めていかないといけない。各委員それぞれご意見を伺いたい。

委員：いずれにしても、どこかにその土地の良さがある。史跡の話もあったが、その土地を知るという中で観光協会も入れていただきたい。

→事務局：神奈川県でスポーツ観戦や観光を融合したスポーツツーリズムを推進している。湘南ベルマーレと観光をつなげて事業を行っていると聞いている。スポーツツーリズムの考え方に合致すると考える。

会長：スポーツ推進計画は、年齢に関わらず、障がいの方にも様々な方に親しんでいただける魅力を増やすことだ。各団体も御理解いただきたい。それぞれの団体の課題等を伺う。

委員：先程縦横の話があったが、幅広く事業をやっていききたい。

委員：平塚市全体のスポーツを考えた場合、スポーツ推進委員は全体の一部を担っている。トップレベルにはいかないが、ある中間層の方々をうまくまとめていきたい。

委員：一番の原因はまとめる人がいないことだ。年をとるので、まとめる人がばらばらになってしまう。ニュースポーツはやって広めてもらうのはよい。それを継続する団体がいない。面倒見る方を育てる団体が必要である。組織化できるとレクリエーション連盟にも入ってもらえると考える。組織化できないと、継続性と人数の把握ができない。

委員：県立施設も地元の地域団体に継続的に貸している。県立施設も地域の中で役割を果たしている。

委員：14ページ、本市のスポーツの現状と課題について「誰もがアクセスできる」項目がある。情報ということが読んでピンとくるのか。

委員：生涯スポーツの中で中学校の部活動の推進についてまさにそのとおりだ。中学校の部活動が今地域移行として動きだしている。子どもが社会、地域とつながりながらいろんな関わりがもてるといいなと考えている。

会長：部活動の地域移行については、基本的施策にスポーツ指導者の発掘と活用の事業をしているが、スポーツ指導者の登録がなかなか進んでいない。

委員：54ページ、部活動の地域移行について、地域移行できるのかどうか、聞いた話では、地域によっては部活動を地域移行できないということがある。計画指標に記載のあるトレセンからプロへあがるところで、20年前と大分状況が変わっている。指標としてそぐわない現状であると感じている。ベルマーレを含め各クラブにトレセンと同じ制度があ

り、技術の高い練習会を独自に行っているのですが、トレセンがプロになる強化育成の指標として貢献できない。代わりに何がトップアスリートを育てる指標になるかとお示しできないが、東海大学からオリンピックに出場や、ビーチバレー等が考えられる。

委員：財団は文化事業も担っているのですが、スポーツとコラボができればと考えているが、なかなか進んでいない。計画指標について、以前は項目毎になっていたが、今回はまとめられたが、計画指標の考え方を教えてほしい。

→事務局：計画指標が数ページにわたっていたため、見易さの観点から一覧に整理をした。

委員：パラスポーツイベントに参加しているが、チラシに名前がなかったりしている。健康づくりという面で大きく貢献していると考えている。今度取り上げてほしい。今一番の課題は30代、40代の運動習慣がないことから、平日開催しているが、今後土日開催を検討している。

委員：昨年、ねんりんピックで観光協会のブースを出させてもらった。観光マップをみなさんに配ったりした。ベルマーレホームタウンデーにブースをいただき、市外から来た方に平塚を知ってもらう機会を設けた。12月にピンクリボンバドミントン大会が開催される際に、同様に観光協会と協力したい。

委員：スポーツはスポーツ自身では成り立たないと考えている。生涯スポーツとしてさまざまな形でみなさんに関わっていくことが大事である。大学では、キャンパスロゲイニングという授業をしている。インクルーシブという言葉の念頭に置きながら、着替えしなくても、障がいを持っていてもみなさんと一緒にスポーツができる環境を整える授業を行っている。歩きながらグループで仲間づくりをしながら写真を撮ってもらう。どんな写真だったか学生が共有する。この活動を通じて、積極的に関わることを実感した。これからのまちづくりにいろんな方が関わっていくことが大事である。

→事務局：36ページに学校体育施設に関する記載がある。身近でスポーツができる場所が重要であることから、小中学校の学校体育施設を開放している。学校体育施設開放事業で、県立高校は、大きな意味では含んでいることで御理解いただきたい。学校体育施設は団体での貸出しになるが、最近一人でも利用したいニーズを踏まえ、東海大学と協力して個人利用も行っている。

参考に20ページに週1回以上のスポーツ実施率で、20代～40代の働き盛りの方はなかなかスポーツができない。60代、70代高齢者がスポーツに親しんでいる方が多いのが統計上出ている。

54ページに中学校部活動の推進について、国が期限を定めているが、今のところ全部移行は難しい。地域、学校や種目によっても事情が違うが、どうゆう形で移行していくのが望ましいか、今後、教育委員会の中で詰めていくことと考える。何らか表現を補強していきたい。

会長：今度ワーキングで協議していきたい。

## 7 閉会